

平成28年大分県観光統計調査(1月～12月・確報)の概要

平成30年6月25日

大分県企画振興部 観光・地域局 観光・地域振興課

- ・平成28年の宿泊客数は440万人で、前年比△3.6%と、3年ぶりに減少に転じた。
(参考：平成27年実績の前年比+4.7%、平成26年+1.3%、平成25年+3.7%)
- ・宿泊客のうち、国内宿泊客数は379万人で、前年比△5.7%と減少した。
平成28年4月に発生した熊本地震が影響したものと推測される。
国内宿泊客の構成を居住地別に見ると、福岡県からの宿泊客が最も多く、次いで大分県内、その他九州(県内・福岡県除く)・沖縄からとなっている。
- ・外国人宿泊客数は62万人で、対前年比+11.5%と堅調に推移した。
熊本地震による落ち込みが見られたものの、その後の復興PR等が奏功したものと見られる。外国人宿泊客の構成を国籍・地域別に見ると、韓国からの宿泊客が最も多く、次いで台湾、中国(大陸)の順となっている。

1 平成28年の県内宿泊客の動向

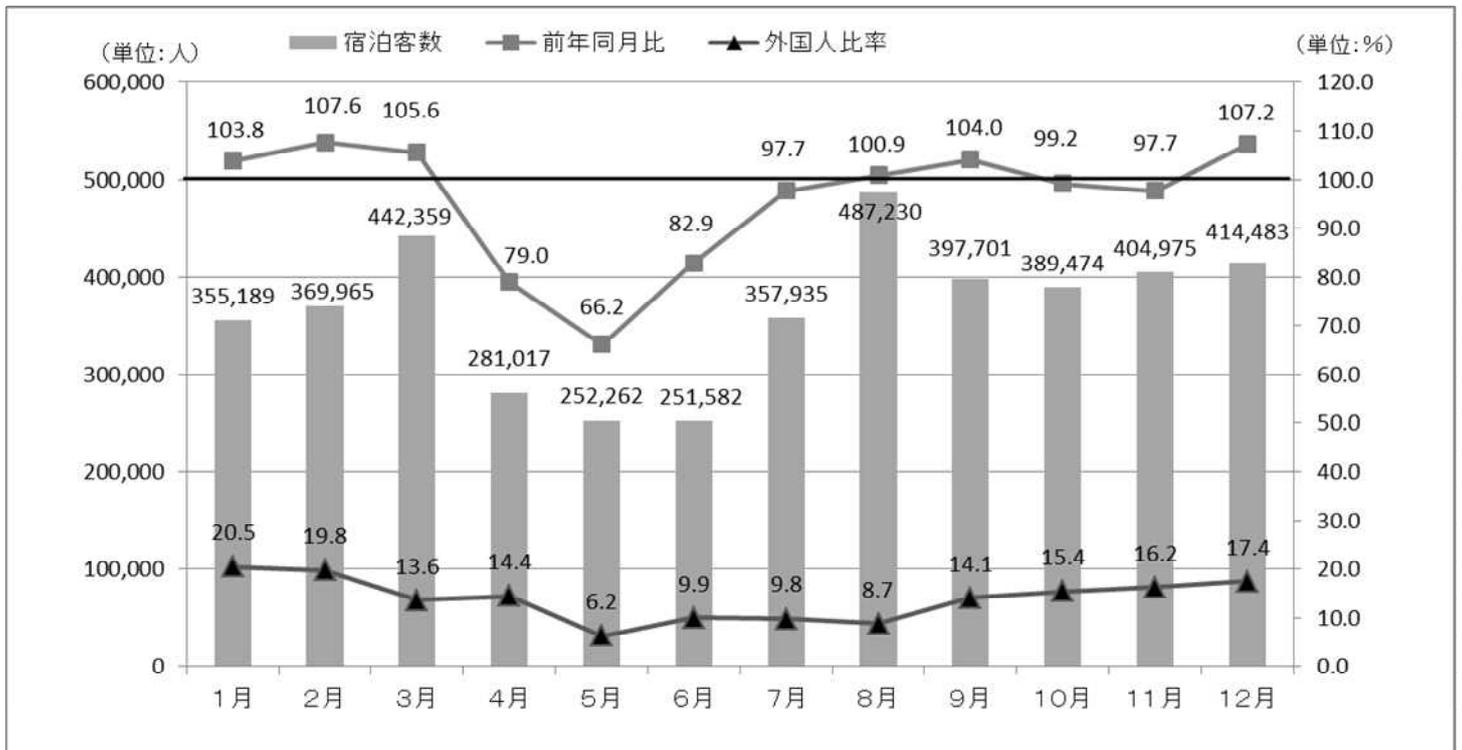
平成28年の県内における宿泊客数は440万人で、平成27年と比べ3.6%減少した。

月別推移を見ると、熊本地震が発生した4月を境に宿泊客数が大幅に減少していることがわかる。その後、宿泊料金を大幅に割り引く「九州ふっこう割」が7月から開始され、以降は宿泊客数がほぼ前年並みで推移している。

【図表1】

また、宿泊客数に占める外国人の割合を見ると、熊本地震発生後と国内宿泊客数が増加する7月や8月を除くと、概ね15%程度で推移しており、県内における宿泊客の6人～7人に1人は外国人客となっている。

【図表1】平成28年月別宿泊客数(確報)



2 国内宿泊客の動向

平成28年の国内宿泊客数は379万人で、平成27年と比べ5.7%減少した。【図表2】

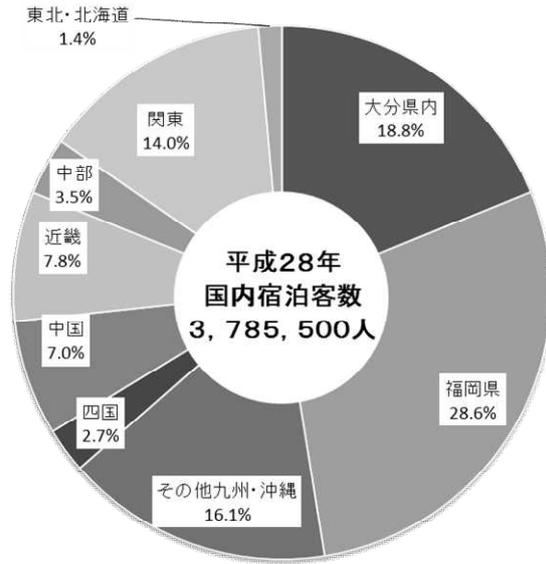
月別推移を見ると、先述のとおり、熊本地震により4月～6月にかけて大幅に減少しているが、7月以降は復興キャンペーンによって回復に向かっている。しかし、総じて前年割れの月が多く、熊本地震による減少分をカバーするに至らず、年計で前年比マイナスとなった。【図表3】

発地別に見ると、福岡県からの宿泊客数は108万人で最も多く28.6%を占め、次いで大分県内が18.8%、その他九州・沖縄16.1%の順となっており、近隣からが6割以上を占める。発地別の前年比を見ると、いずれの地域からの宿泊客数も前年を下回った。【図表2】

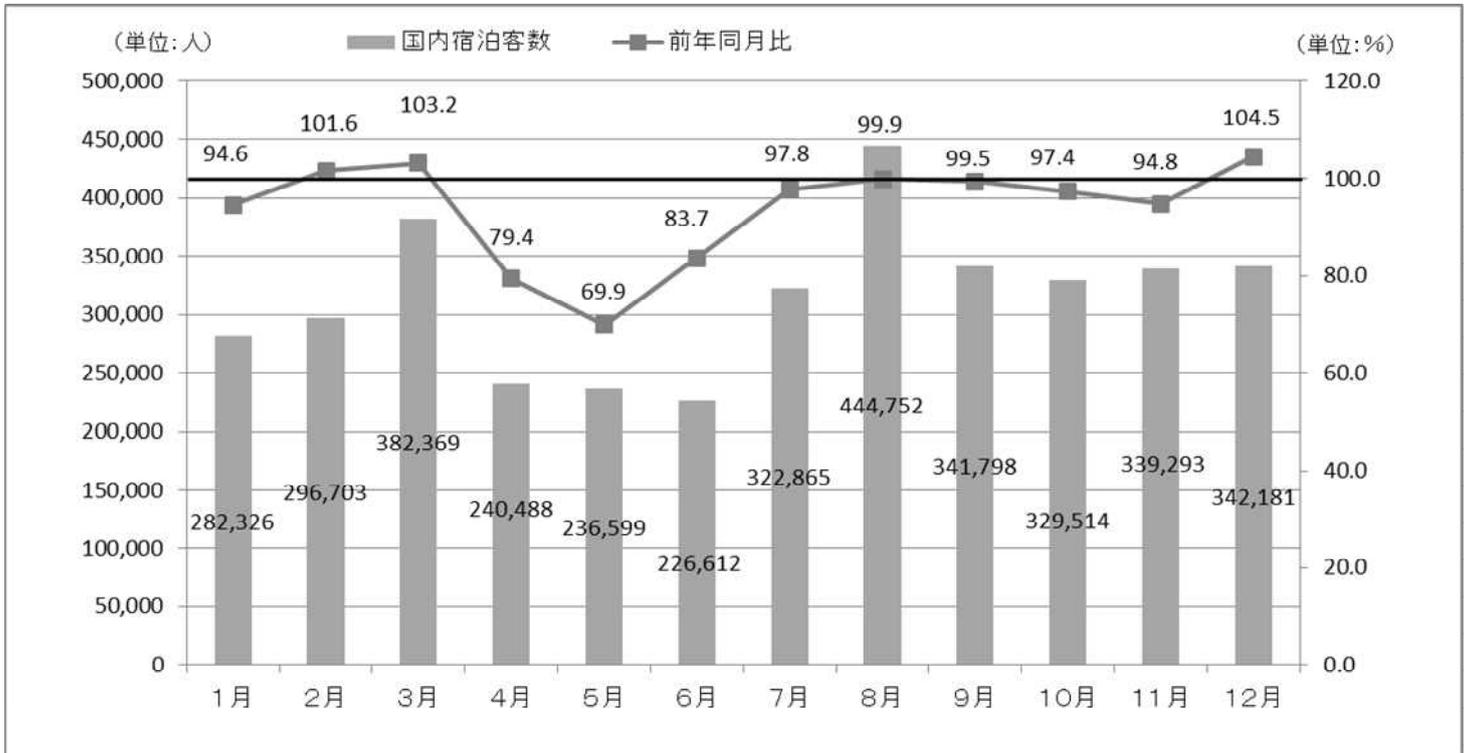
【図表2】 国内発地別宿泊客数および構成比

| | 宿泊客数 (人) | 前年比 (%) |
|----------|-------------|------------|
| 大分県内 | 712,913 | 99.9 |
| 福岡県 | 1,083,907 | 98.6 |
| その他九州・沖縄 | 609,650 | 93.1 |
| 四国 | 103,189 | 88.8 |
| 中国 | 264,874 | 98.7 |
| 近畿 | 296,877 | 87.3 |
| 中部 | 132,047 | 75.8 |
| 関東 | 528,465 | 90.2 |
| 東北・北海道 | 53,578 | 85.2 |
| 国内小計 | 3,785,500 | 94.3 |

国内宿泊客の構成比(平成28年)



【図表3】 平成28年月別国内宿泊客数



3 外国人宿泊客の動向

平成28年の外国人宿泊客数は62万人で、平成27年と比べ11.5%増加した。【図表4】

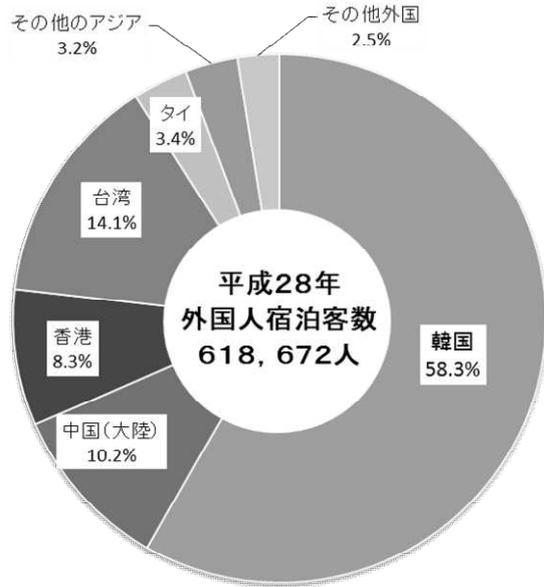
月別推移を見ると、国内宿泊客同様、熊本地震発生後の4月～6月にかけて大幅な減少が見られるが、7月から回復基調となり、以降は前年を大きく上回って推移している。平成28年9月には台中との定期チャーター便（マンドリン航空）が就航し、台湾客の増加を後押しした。【図表5】

外国人宿泊客の国籍別構成比をみると、韓国からの宿泊客が36万人と最も多く、外国人宿泊客全体の58.3%を占める。次いで台湾、中国（大陸）の順となっており、香港も含めた東アジア圏で9割を占めている。【図表4】

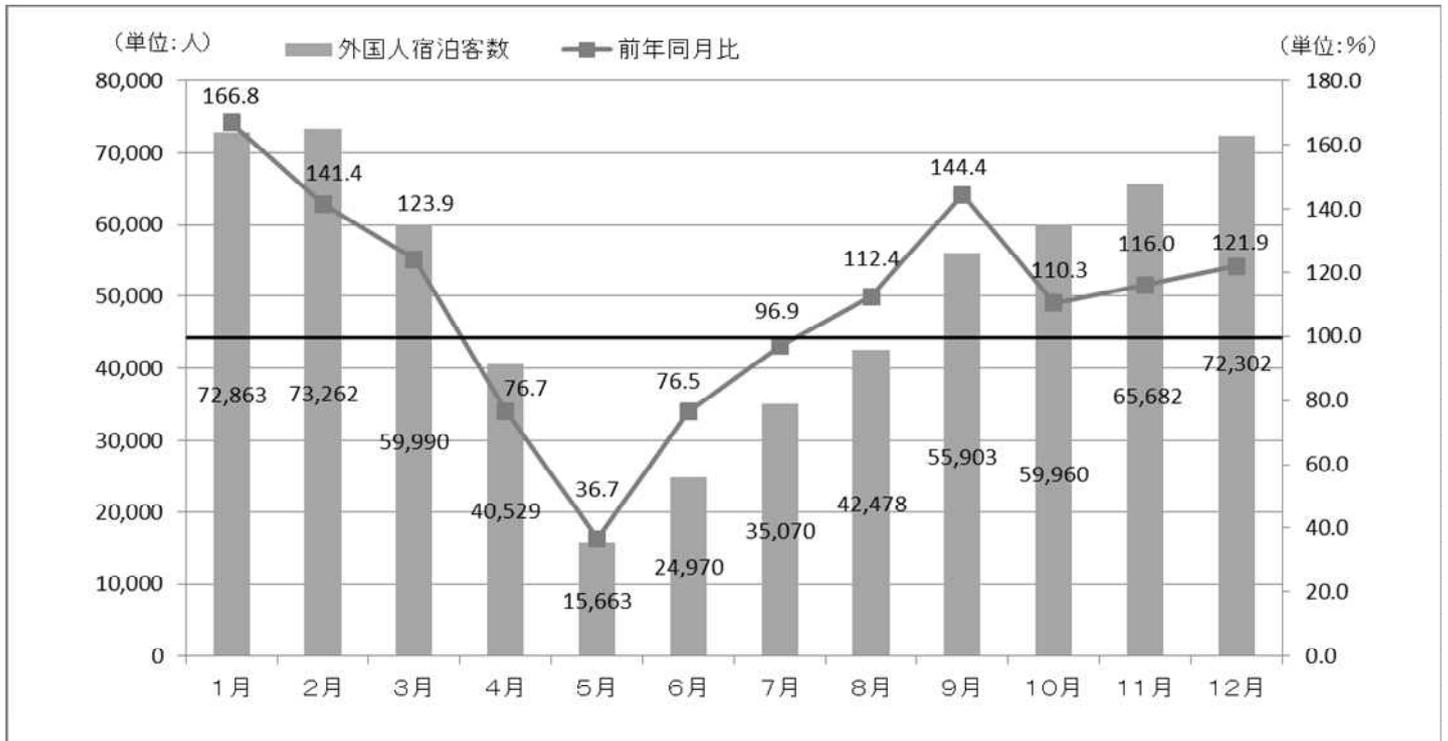
【図表4】外国人発地別宿泊客数および構成比

| | 宿泊客数 (人) | 前年比 (%) |
|---------|-------------|------------|
| 韓国 | 360,601 | 116.1 |
| 中国(大陸) | 63,020 | 129.2 |
| 香港 | 51,580 | 98.3 |
| 台湾 | 87,296 | 115.0 |
| タイ | 20,767 | 85.8 |
| その他のアジア | 19,750 | 81.0 |
| その他外国 | 15,658 | 83.7 |
| 外国小計 | 618,672 | 111.5 |

外国人宿泊客の構成比(平成28年)



【図表5】平成28年月別外国人宿泊客数



4 市町村別宿泊客

平成28年の県内宿泊客数を市町村別に見ると、別府市が最も多く205万人となっており、全体の46.5%を占める。前年比では大分市以外が前年を下回った。【図表6】

【図表6】市町村別宿泊客数

| | 宿泊客数 (人) | 前年比 (%) | 構成比 (%) |
|---------|-------------|------------|------------|
| 大分市 | 903,521 | 104.4 | 20.5 |
| 別府市 | 2,048,576 | 92.7 | 46.5 |
| 日田市 | 280,481 | 95.3 | 6.4 |
| 竹田市 | 112,414 | 89.6 | 2.6 |
| 由布市 | 288,329 | 89.8 | 6.5 |
| 九重町 | 118,512 | 98.7 | 2.7 |
| その他の市町村 | 652,339 | 103.0 | 14.8 |
| 県計 | 4,404,172 | 96.4 | 100.0 |

5 県内交流客数

大分県観光統計調査では、県内交流客数として、有料観光施設の入場者数や道の駅レジ打ち数等の項目について調査しており、その結果は以下のとおりとなった。

熊本地震による影響が出たと思われ、高速道路のIC通過台数以外を除く全ての項目が前年比マイナスとなった。

| | |
|------------------|------------------------|
| ・有料観光施設(入場者数) | 5,766,434人(対前年比-12.6%) |
| ・道の駅(レジ打ち数) | 4,301,202回(同-4.4%) |
| ・大分空港(乗降客数) | 1,801,513人(同-1.5%) |
| ・県内港湾乗降客数 | 1,557,484人(同-5.7%) |
| ・高速道路(1日の出入通過台数) | 101,958台(同+0.9%) |

【参考】調査対象有料観光施設¹(合計30施設)

| 屋内施設(15施設) | 市町村 |
|--------------------|-------|
| 大分マリンパレス水族館「うみたまご」 | 大分市 |
| 大分県立美術館 | |
| 大分市立美術館 | |
| スギノイパレス | 別府市 |
| アクアビート | 中津市 |
| 福沢旧居・資料館 | |
| サッポロビール九州日田工場 | 日田市 |
| 地底博物館鯛生金山 | 佐伯市 |
| 大分県マリンカルチャーセンター | |
| 滝廉太郎記念館 | 竹田市 |
| 富貴寺 | 豊後高田市 |
| 安心院葡萄酒工房 | 宇佐市 |
| 朝倉文夫記念館 | 豊後大野市 |
| 九州湯布院民芸村 | 由布市 |
| 国東市歴史体験学習館「弥生のムラ」 | 国東市 |

| 屋外施設(15施設) | 市町村 |
|-------------------|-------|
| 高崎山自然動物園 | 大分市 |
| 別府地獄組合 | 別府市 |
| 別府ロープウェイ | |
| 城島高原パーク | |
| 別府ラクテンチ | 臼杵市 |
| 臼杵石仏 | |
| 風連鍾乳洞 | 竹田市 |
| くじゅう花公園 | |
| 岡城跡 | |
| 昭和の町 | 豊後高田市 |
| 熊野磨崖仏 | |
| 真木大堂 | 宇佐市 |
| 九州自然動物公園アフリカンサファリ | |
| 稲積水中鍾乳洞 | 豊後大野市 |
| ハーモニーランド | 日出町 |

¹ 平成27年調査から、大分県立美術館、大分市美術館を対象施設として追加した。